



おめでとうございます(敬称略)

- 春の褒章
【藍綬褒章】▶社会福祉功績 綱島照雄(村上)
■春の叙勲
【瑞宝重光章】▶検察官功労 増田暢也(ゆりのき台)
【瑞宝双光章】▶総務省行政事務功労 稲島陽一(大和田新田)・加藤美枝子(緑が丘)
【瑞宝単光章】▶消防功労 鈴木茂(米本)
■危険業務従事者叙勲
【瑞宝双光章】▶警察功労 有吉正典(大和田新田)・粟野健二(大和田新田)・久保田孝(緑が丘西)・長谷部富夫(萱田)
▶消防功労 日原龍一郎(米本)
【瑞宝単光章】▶防衛功労 田代容久(大和田新田)
▶警察功労 星敏之(勝田台)・若月侃(大和田)

ありがとうございました

- ▶黄色いワッペン (株)みずほ銀行、(株)損害保険ジャパン日本興亜、明治安田生命保険相互会社、(株)第一生命保険から、黄色いワッペンが新入学児童分1,825枚寄贈されました。これは、新入学児童の交通安全を願って、昭和40年にスタートし、今年で54年目を迎える事業です。ワッペンには、31年3月まで有効の交通事故傷害保険が付いています。
▶交通安全啓発下敷き (公財)千葉県交通安全協会連合会
▶ランドセルカバー 八千代交通安全協会
▶防犯笛 (株)日本マクドナルド
▶サイクルリフレクター コスモス交通安全協力会、(株)千葉興業銀行

ドローンを使った 県内初の三者協定を締結



市、八千代警察署と株式会社D-LIFEが、4月17日に「無人航空機の活用に関する協定」を締結しました。警察署を交えた三者協定は県内で初めて。今後はドローンを使って、新川沿いの桜、八千代ふるさと親子祭のPRや災害時の状況把握に活用します。また、警察と連携して、イベントの警備などで映像を活用した、安全対策に取り組んでいきます。



左から(株)D-LIFE代表取締役の中里さん、服部市長、星野署長

和紙を使った本格的な兜づくりを体験 「ゆいの会」が日本の伝統文化を継承しています

5月5日は端午の節句。飛鳥時代には、宮中行事として行われていましたが、武者人形やこいのぼりを飾ることが一般的に広まったのは江戸時代以降。子どもたちを、交通事故や病気から守ってくれるようにと、願いを込めて兜を飾ります。4月22日、文化伝承館でこの伝承文化を知ってもらうことを目的に、和紙を使った兜づくり講座が行われました。講師は、ボランティアとして日本の文化を継承するために活動している「ゆいの会」の皆さん。小学生から60歳代までの男女15人が挑戦しました。和紙は、一度折り目を付けると、跡が目立ってしまうので、慎重に作業を進めます。兜を飾る台座にはじまり、兜の本体、かがり火と工程が進むにつれて難易度が上が

っていきます。かがり火の火の部分には、羽が長くなるように作ったツルを使うアイデアも取り入れています。兜の複雑な形を表現するので、細かい作業の連続でしたが、子どもたちも最後まであきらめずに取り組むことができました。完成させた兜を手にとって、喜ぶ顔には達成感が感じられました。



講師の皆さんの優しい指導で、上手に作れました

マンホールカードを無料で配布しています

八千代を代表する、バラや新川などがデザインされたマンホール蓋をカードにしました。このマンホール蓋は、昨年12月に下水道事業の開始と市制施行の50周年を記念して、市内の各所に設置したものです。カードは、GKP(下水道広報プラットフォーム)と共同で制作しました。



表面には、設置場所の座標値、裏面には、デザインの由来も

カードの様式は、全国の自治体で共通なのでこの機会に集めてみませんか。▶配布場所 平日は上下水道局下水道課、土曜・日曜日、祝日は株式会社八千代市水道サービス(上下水道局敷地内)いずれも年末年始を除く午前9時~午後5時 ▶問い合わせ 上下水道局下水道課☎482-0924

2018電動車椅子サッカー交流大会inちばを開催

電動車椅子サッカーは、障害の程度、年齢や性別に関係なく楽しめるのが魅力で、パラリンピックの正式種目入りを目指しています。この大会は、障害者スポーツの普及や理解を広めるために、県電動車椅子サッカー協会が企画し、今回で9回目を迎えます。東京や神奈川などから12チームがエントリーし、八千代市からも「クローバーズ」が参加します。ダイナミックでスピード感あふれる試合が楽しみです。▶日時 6月10日(日)午前10時~午後7時 ▶場所 市民体育館 ▶問い合わせ 同大会実行委員会事務局☎480-0801



スティック型のコントローラーを手や顎などで操作してプレーします

やちよ川柳 八千代川柳連盟選
割引券バッグの中で期限切れ 村上 増川みずえ
ひふみが茶の間和ます コーシヤル 米 本 木村つる子
三権を揺らし八億円値引き 大和田 阿部けいこ
努力から生まれる笑顔涙顔 八千代台南 菊池ひろ子
高齢化美人薄命死語となる 勝田台 田中 隆
新宿を今はゴジラが守ってる 上高野 廣田 高見
車中では昔居眠り今スマホ 勝田台 喜田 賢
まず言葉気持ちは後で追いかける 勝田台 喜田 賢
足踏みし歩いたことにするノルマ 大和田 関川由美
知らぬ子に挨拶されて温くなる ゆりのき台 石田 らく
毒舌も懐かしくなる偲ぶ会 勝田台 笹野 三郎

八千代歌壇 佐波 洋子選
楼門の仁王の阿吽の口柔く牡丹の庭に誘はれゆく (八千代台西) 佐々木光枝
娘には負担かけまいと離壇決め言葉少なき寺までの道 (八千代台北) 水野太佳代
毎日が余命で余命重ねたりスーパーマンがまぶしい二日 (勝田台北) 田巻 幸生
幸せは春の桜に秋の月酒は剣菱野球は巨人
ゆうべ夢に小さき手洗いやりし子が今朝見下ろしてわれに物言う (八千代台南) 桑原 慎子
冷たき風吹き抜ける庭にまん丸の梅の蕾の白くほどけ来 (村) 上 綱島みち子
ふくしまの被曝の大地かなしかり思郷の山河父母戻れず (大和田新田) 小針 光
霧雨の朝の窓辺の柿の枝は水玉育ち光る糸おつ (勝田台) 鈴木 悦秀
選評 一首目、仁王は寺門の左右にあり阿吽の口で憤怒の形相をするのが常だが、作者は仁王の口元の優しさに誘われて庭に入ると美しい牡丹に出会った。思いがけない喜びと感動がある。二首目、近年の世相を反映。子供に負担を残さぬように墓仕舞が増えている。下の句に一抹の寂しさと複雑な心が投影されている。三首目、大病をしたか持病があり、あと何年などと言われた年齢を過ぎて、一日一日を余命と感じ向き合う切実な心境か。天体の大きな時間との対比は出来すぎ。

Twitter URL http://twitter.com/yachicho_shi
八千代市ツイッター
防災情報・緊急情報などを発信しています